11 月の園芸相談　Q&A

果樹の肥料やり

Q. モモ、カキやミカン、ビワなどの果樹の肥料をやる時期、量、施し方を教えてください。
A. モモなどの落葉果樹は葉が落ちてから休眠期に、ミカンなどの常緑果樹は晩秋に元肥えを施します。

≪ポイント≫
元肥えには有機質肥料（油粕や魚粕）を主に与え、追肥には化学肥料を使います。

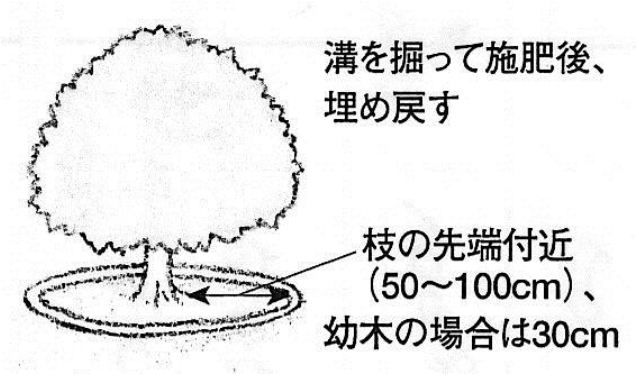
1. 肥料を与える時期
発芽直前の施肥より１１月～1 月の施肥のほうが、枝の成長や果実の収量がよいという実験結果があります。この場合、肥料は冬でも１、２ヶ月で根に吸収され、施肥時期が早いほど春に出る新梢内の養分含量が高くなりました。

2. 与える量
（1）庭植え
木の年齢と果樹の種類によって変わりますが、与える肥料分の目安は下表の通りです。
１本あたりの施肥量（成分量：g）

	３年樹まで			５年樹まで		
	N	P	K	N	P	K
多くの種類	50	20	50	100	25	100
ミカン類	80	50	50	200	150	100
ベリー類	10	10	10	20	20	20

上表から３年樹の多くの種類については、１本あたり油粕(5-2-1)　1000g、硫酸カリ(0-0-40)　100g を与えればよいことになります。
（2）鉢植え
元肥えには油粕や骨粉を主体につくった固形肥料を使います。大粒なら５号鉢に１年目に３個、２年目に４個、実のつく３年目には５個を鉢縁に置きます。

3. 施し方
果樹の施肥は、根にじかに肥料が当らないようにするのが基本です。
木の枝の先端の下の地面に輪状に浅い溝を掘って肥料を入れ、埋め戻すか、根張りの浅いものは周囲にばらまいて軽くすきこみます。



11 月の園芸相談 Q&A

観葉植物の冬越し

Q. アレカヤシ、ベンジャミナゴム、パキラなどの観葉植物の冬越しはどのようにするのですか？

A 植物の耐寒温度を調べ、その条件を満たす場所に置いて育てます。

≪ポイント≫

観葉植物は種類によって冬越しの適温が異なり、高温性（１８～１５℃）、中温性（１３～10℃）低温性（１０～8℃）、耐寒性（8～5℃）に分けられます。

1．観葉植物の冬越し温度

① 高温性（１２～１０℃で障害発生）・・・アローカシア、フィットニア、ショウジョウヤシ。

② 中温性（7～5℃で障害発生）・・・アンスリューム、アレカヤシ、クロトン、ドラセナ、フィロデンドロン、ベンジャミナゴム、マランタ、モンステラ。

③ 低温性(0℃前後で障害発生)・・・アジアンタム、オリヅルラン、ゴムノキ、シェフレラ、ストレリチア、パキラ、ブライダルベール。

④ 耐寒性（－３～－５℃で障害発生）・・・アイビー、プテリス、ユッカ。

2．順化（ハードニング）

冬が近づいたら次のような点に留意して育て、植物の耐寒力を高めます。

① 肥料・・・リン酸とカリを主にし、チッソ分を減らし、低温期には施肥しません。これで急激な落葉を防げます。

② 水やり・・・乾かし気味にします。

③ 日当たり・・・５～７日かけて徐々に日照時間を減らします。ベンジャミナゴムなどはこの処理で落葉が少なくなります。

④ 温度・・・植物の耐寒温度近くに最低気温が下がるまで戸外に置き、以後は室内に取り込むか、加温をします。

3．置き場所

住宅の中では場所によって温度が大きく違うので、植物を置く場所に寒暖計を置き、最低温度を確認して置き場所を決めます。窓際は日中の温度が高く夜は冷えるので、日当たりが好きな植物は、日中は窓際に置き、夜は部屋の中央に移します。

暖房機の温風が植物に当ると株がいたみますから暖房機の近くに置いてはいけません。

冬越しに５～10℃以上必要な種類は、夜間だけ発泡スチロールや段ボール箱に入れ、その上に毛布をかけて保温に努めます。０～５℃で越冬できるものでも、夜間に株の上から紙袋や新聞紙をかけるだけでも効果があります。